



市長は長久手をどんなまちにしたいか、そのために何に取り組もうとしているのか。その想いを市長の語り口でお伝えします。
みなさんと語り合うように、一緒に未来の長久手のことを考えてみましょう。
また、市HP【にょぜがもん】もぜひご覧ください。
[市HPのトップページから「にょぜがもん」をクリック。]



未来は私たち次第

2月末、中学3年生のみなさんと先生方に無理を言って、「みんなが50歳になる2050年頃の長久手市が、こうだったらいいネ」と一言、書いてもらいました。

「ゴミのないまちがいいネ」「徒歩や自転車で移動できるまちがいいネ」「自然が残っていたらいいネ」などのほか、「高齢者が住みやすいまちがいいネ」「子どもが安心して遊べる公園があったらいいネ」など、自分以外の世代にも思いを馳せる意見が数多くあったことに感心しました。

長久手中学校では、「運動ができる場所があるといいネ」や「自然がたくさん残っていたらイイね」、南中学校では「犯罪や交通事故のないまちがいいネ」、北中学校では「香流川がキレイだといいネ」などの意見がありました。

これから市では、中学生を始め、多くの市民の「こうだったらいいネ」の声を集めていきたいと考えています。たくさんの声を集めると、将来の長久手を考えるときの道標になります。

こんな風にちょっとでも、まちのことを考えた経験の一つ一つが、「長久手が、自分のふるさとだ」と感じることにつながります。そうした経験を重ねることで、進学や就職で、一旦、長久手を離れても、また必ず、長久手に戻って来ようと思うのではないのでしょうか。

卒業式前の大変忙しい時期に、ご協力をいただいた卒業生のみなさん、先生方に改めてお礼申し上げます。

卒業式の最中に、ふと、こんなことを思いました。

2050年は、超高齢人口減少社会で悲惨な時代になると思っている人も多いけれど、素晴らしい時代になるはずだと。

なぜなら、誰も経験したことのない人口減少社会は、脇目も振らず、山の頂上1点を目指した時代とは異なり、立ち止まったり、ゆっくり考えたりすることができる社会になると思うからです。誰も経験したことがない社会なので、何が正解なのか誰にも分かりません。私たちの一人ひとりの考え方、行動次第で、きっと素晴らしい時代にしていくことができるはずです。



北中学校卒業式



表紙の写真もう一枚

みなさんも、一度はやったことがあるラジオ体操。ラジオ体操の正しい方法を学ぼうと、NPO法人全国ラジオ体操連盟から指導士を招き、実際にラジオ体操しながら指導してもらいました。参加者のみなさんは、楽しみながら、ラジオ体操で清々しい汗を流していました。

